

特集
1

第13回 SRお客様交流会

2011年9月8日(木)
in 大田区産業プラザPiO

前回は上回る98社151名のお客様が参加。「成果を出すためのきっかけづくり」をテーマとし、SRを業務に活用する事例発表や、分科会などSR運用のノウハウ&情報交換が行われました。



センター全体の三位一体の体制づくりがSR導入の成果を出すカギとなった

ローソンファミリー 様



株式会社ローソン 前原 幸正 様(左) 三菱食品株式会社 大野 美紀 様(中央) キャリテック株式会社 佐藤 克史 様(右)

会社概要

株式会社ローソン

設立: 1975年4月15日
事業内容: コンビニエンスストアの
フランチャイズチェーン展開

三菱食品株式会社

設立: 1925年3月
事業内容: 加工食品卸売業が主要業務

キャリテック株式会社

設立: 1968年11月11日
事業内容: 一般区域貨物(路線)、自動車運送業、
倉庫保管、構内作業(一括アウトソーシング)

SRとSRnetworkがもたらした、店着管理と安全・エコ効果 ~講演: ローソン 前原様

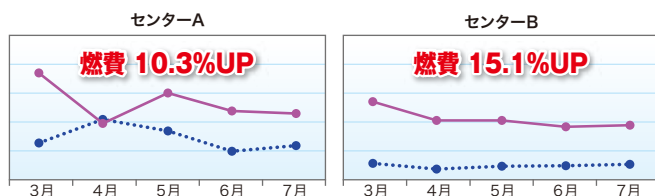
ローソンは、「マチのほっとステーション」を目指して地域のお客様へのニーズに応える、全国9,160店舗のコンビニエンスチェーンです。ニーズにお応えするために、全国店舗に物を運ぶ業務(配送作業)が発生します。そのため配送時の安全や事故防止が命題であり、ドライバーの安全意識向上とともに、近年ではCO₂削減による環境対策も大きな課題でした。

「安全運転=事故の減少=CO₂削減」ととらえ、ファミリー全体でエコドライブをどう推進するかを考え、その具体的な施策としてSR導入を決定。SRとともに**店着管理システム『SRnetwork』導入も大きな要因でした**。SRnetworkにより配送車の「店着管理」や「動態管理」が可能になり、**夜間配送時の車の位置確認やオンラインでの店着確認が各営業所で一括管理できるようになりました**。導入後のデータ・テックの丁寧なサポートもあり、ファミリー全体で高い効果をあげています(グラフ)。

SR運用の成果

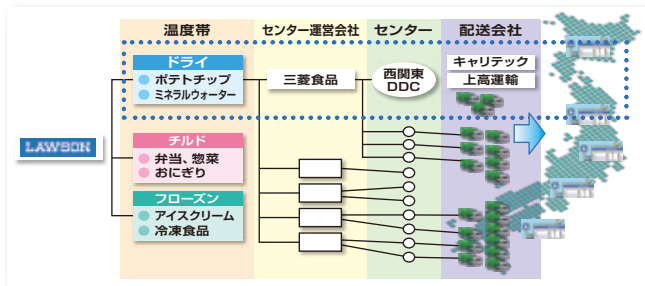
前年同月燃費比較

●は2010年 ●は2011年



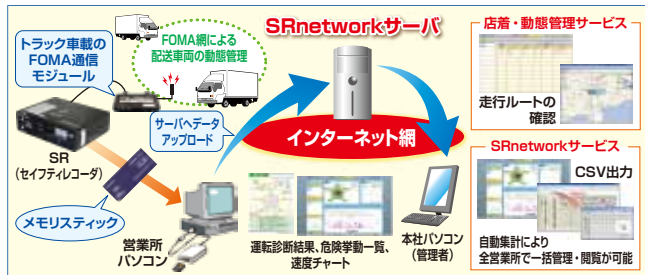
2つのセンター全体の平均燃費効果を比較。SR導入前後で両センターともに燃費が向上

ローソンファミリーの物流フロー



ローソンでは、温度帯別に「ドライ」「チルド」「フロースン」の3商品を扱い、業務委託会社の協力を得て全国の店舗へ商品を届けている

SRnetworkの全体像



ドライバーの運転解析から運行データの一括管理、店着管理、動態管理などが実現可能になる

バラバラのセンター事情を1つに。三菱食品のSR導入奮闘記 ~講演: 三菱食品 大野様

三菱食品は、ドライセンター(以下DDC)と、フロースンセンターを運営し、そのうちのDDCでSRを導入しました。三菱食品は主にセンターの運営を担当。実際の庫内作業や配送業務などは委託会社が行い、配送業務は配送協力会社が請負うので、**SR導入には関係会社の協力が不可欠**でした。

2009年、三菱食品が運営する12センターにSR導入を決定。2010年6月

から各センター長が委託会社との調整を開始しました。ここで実感したのが、**委託会社と配送会社へSR自体とその導入への理解を得ること**です。委託会社によって複数の配送協力会社が入っている場合もあり、三菱食品内にもSRへの知識不足や疑心暗鬼があり、課題は山積みでした。配送会社のドライバーの業務時間外でのSR取付けなどの協力を得ながら、2010年末に全センター(全車両381台)に導入できました。

SR普及と成果のカギは“三位一体”の協力体制 ～講演：三菱食品 大野様

データ・テックの力を借りて12センターの**全国ランキング表**を作成し、SRの導入効果を高める働きかけを実施。その目的は競争をあおるのではなく、全国での自社レベルの確認や、SR得点が伸びない理由を振り返ってもらうことでした。さらにデータ・テック主催の講習会や、SRの運転診断を元にしたKYTなど勉強会を開催。また**運営会社と委託会社、配送会社の三位一体の体制**でSRをしっかりと理解し、現場導入への働きかけを行いました。

全国センター
ランキング表作成

勉強会の実施

1.運営会社

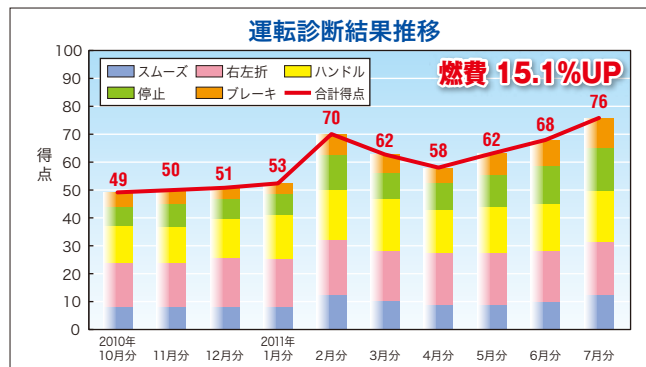
2.委託会社

3.配送会社

三位一体で SRを理解する必要性がある

関東1位を宣言！ センター全体がSR導入をきっかけに一体化 ～講演：キャリテック 佐藤様

三菱食品から西関東DDCの業務を請け負うキャリテックでは**センター全体でのSR得点アップ**を目指すとともに「**関東地区で1位になる**」ことを宣言し、SRによる「見える化」を開始。三菱食品とキャリテック、配送会社の上高運輸3社の社員やパートにいたるまで声をかけることでセンター全体に変化が現われました。掲出される得点表によりドライバーの運転が見える化され、**管理者がドライバーの変化に気がつき、両者のコミュニケーションも活性化**しました。例えば、SR得点が40点のドライバーは、自然と自分の運転を振り返って反省し、周囲からも励まされたり、得点アップのコツを教えられたりという雰囲気生まれ、その結果、平均80点以上の安全意識の高いドライバーに成長しました。SR導入によりドライバーの技術や意識面で大きな変化をもたらしました。今後は「関東ではなく、全国で1位」を目標にして**センター全体で運転技術や安全意識の向上を図りたい**と思っています。全国で見るとセンター間でのSR平均点の格差がまだまだあり、各センターでの点数の底上げが必要です。「事故・トラブル・クレーム0」をローソンファミリー全体で目指し、すべてのお客様に満足していただける**安心・安全・安定な配送**を実現したいと思っています。



SR運転診断結果の推移。2010年秋から2011年夏まで、着実に右肩上がりの傾向を示している

西関東DDC
今後の目標

- 1.店着管理の「見える化を実行」
- 2.センター全体の点数の底上げ
- 3.事故・トラブル・クレーム0

センター全体の 関東1位から、ステップアップして日本1位を目指したいと述べた

3.11直後の被災地を駆け抜けたレントラ便 SRが捉えた救援の軌跡とBCPの必要性

株式会社ハーツ 様

会社
概要

所在地：東京都品川区南大井5-12-3 事業内容：運転手付きレンタルトラック「レントラ便」
設立：1995年10月

(詳細はSRNEWS vol.43の同社特集号をご参照)

代表取締役
山口 裕詮 様

ローソンファミリーに続き、運転手付きのトラックレンタルサービスという画期的なビジネスモデルを考案し、急成長を続ける株式会社ハーツの山口代表取締役が登壇した。

東日本大震災直後の3月11日20時頃、ローソン災害対策本部から「救援物資を東北へ運んでほしい」という依頼を受けた。すぐに山口代表取締役自らがトラックを運転し、被災地に向かった。現場の惨状を目の当たりにしてボランティアによる物資輸送を決定。20回以上にわたる物資輸送を実施し、現在も被災地の復興支援を継続中だ。同社は、2006年よりSRを導入し、燃費向上による燃料費削減や事故件数の削減に成功している。被災地への物資輸送の際にも**SRで現地の様子を映像や輸送経路として記録**したという。「ライフラインを絶対に止めてはいけないこととBCP*の必要性を痛感した」と述べ、震災後に自社で策定した25項目のBCPと運用計画を紹介。最後に『Safety Rec』と『SRNetwork』を利用したドライバーの安否や位置情報確認への活用をBCPの中期プランとして組み入れたいと述べた。

* 自社を取り巻くビジネス環境を意識した災害復興計画



レントラ便の車両に
搭載したSRが捉えた
被災地の運行記録

その他、丸吉運輸機工の石澤所長様(左)によるSEDAC活動の紹介や、テーマ別に異業種間で意見交換を行う分科会(右)も開催。SRと安全、エコに関する活発な意見が交わされました。



2回目を迎えたSR実車セミナー。「診断点数UPのコツ」をテーマとして、SR搭載車による実車教習が行われました。当日は、10名のドライバーや管理者の方が参加し、SR体験走行や座学講習によるSR得点向上のノウハウや実践テクニックを学べる1日でした。

100点への道はSRの理解から！ 高得点のための運転理論を学ぶ

実車走行前に「SRがどういう点に着目しているか」と題して、座学講習が行われた。交通環境に影響を受けない教習コースにて、**SRの特性を理解した上で運転操作をすれば、高得点を出ることを体感してもらう**ことが目的だ。SRはGPS、加速度センサ、ジャイロセンサを使った「電子の振り子」を搭載。振り子の触れ具合でアクセル、ブレーキ、ハンドル操作の大きさを計測、「速度に応じた丁寧な運転操作を行うことで揺れの少ない、優しい運転を実現できる」という講習があった(図1)。

さらにSRはブレーキやハンドル操作など5項目での運転診断を行う(図2)。例えば「ブレーキ操作」では、「ブレーキ開始速度とブレーキペダルの踏み込みの強さ」と「ブレーキペダルの踏み込みの速さ」を見ており、実際の走行では車間距離不足による制動のまざさをシビアに判定するなど、各着目点での得点向上のノウハウを解説した。教習コースということに加え、座学講習を理解した運転により、どの受講者も90点以上が続出した。実車教習後、受講者の走行データを元にした散布図による分析・診断講習が行われた(図3)。散布図は、**ドットの分散により「いつ」「どこで」「どのよう」に運転操作をしたかが一目瞭然**であり、車の挙動が数値化できるため、ブレーキ開始から停止にまでかけた時間がわかるなど、より具体的な指導ができる。

交通の流れに沿って高得点を出すための 実践的な安全運転教習を実施

午後は、午前中の講習を応用し、**実際の交通の流れに沿って高得点を出すコツ**を掴むため、加減速にメリハリをつけたハンドルと右左折操作を重点課題とした。「**速度を出す時は出す、抑える時は抑える**」がポイントであることが説明された。SRは「遅く走るほど高得点が出せる」と思われがちだが、**車速に関わらず、きちんとした運転を行えば、かならず高得点が出せる**。直線を60kmで走りカーブ手前で制動し、「早めのアクセルオフとフットブレーキによる十分な減速⇒車を安定した状態にして丁寧なカーブ操作」の教習が行われた。そこでは、「**停止位置を早めに定め、余裕あるブレーキ操作を行うことが重要**。その余裕が交通状況の正確な早期予測に繋がる」など日常走行での有効なアドバイスがあった(図4)。

SR実車セミナーは、点数の低い受講者には同乗教習が受けられるのも魅力。当日も右左折、ハンドル、スムーズがすべて8点の受講者が同乗教習によって高得点を出して周囲を驚かせていた。じっくり1日をかけた教習も終わり、最後にセミナー修了を記念した賞状が、講習者全員に手渡された(写真)。

データ・テックでは、今後も実車セミナーを開催する予定なので、点数に伸び悩むドライバーや、教習方法がうまく掴めない管理者には、ぜひとも参加していただきたい。

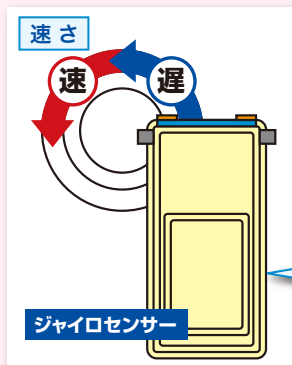


図1 SR搭載のGPS、加速度センサ、ジャイロセンサにより、各運転操作での加速度とともに、旋回速度や車の向き(姿勢)を見ている。交差点での曲がり方がわかるのは、SRの特長のひとつだ



図2 5項目におけるSR運転診断の着目点

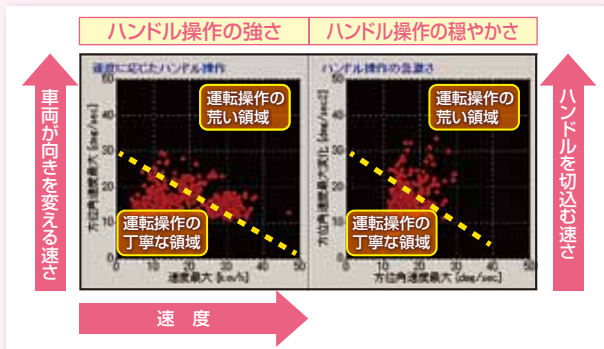


図3 散布図の見方(ハンドル操作の仕方)。ドットが上にいくほどハンドルを大きく切り込んでいたり、早く切り込んでいたりする

- 1 90度を3秒かけて曲がる
- 2 停止の際には5秒以上時間をかける
- 3 やんわりブレーキを心がける
⇒アクセルペダルから足を放して、1秒後にブレーキを踏む

図4 実車セミナーでのSR得点向上のための3つのポイント



写真 実車セミナーは、通常教習のほか希望者は同乗教習、補講まで対応の丁寧な内容。セミナー終了後は修了証を進呈する

第1回 SEDACセミナー

2011年12月6日(火) 東京・三井住友海上蒲田支社会議室

「SEDAC*」は、車両を使う企業がエコドライブを普及・促進させ、環境にやさしい安全・安心な社会を実現するコンソーシアムのこと。その第1回セミナーに20の団体・企業から約30名が参加し、エコドライブ成果事例や、第1回燃費実験の計測結果について詳細報告が行われた。

*セイフティ・エコ・ドライブ・アクションコンソーシアムの略

業界ごとに“燃費”の捉え方が違う!? SEDACが追求する“究極の燃費”とは?

最初に丸吉運輸機工株式会社代表取締役社長であり、SEDAC代表幹事の吉谷氏(写真左)からSEDACの概要を紹介。吉谷代表幹事は、「様々な業界や団体においてエコドライブに関する情報が共有されておらず、“燃費”という言葉自体も捉え方や理解が一致していない」ことを強調。SEDACでは実証実験などで検証することで、燃費の実体(「究極の燃費」と定義)を掘り下げていきたいと語った。

次にSEDACの呼びかけ人であるデータ・テックの田野代表取締役から、SRを導入した7社の燃費効果を例に、各社が行う5つの取り組みを紹介(図)しながら、「客観的な数値が取り組みを促進させると感じて、手始めに流量計とSRを使ったディーゼル車の燃費計測を試みました」と語った。

曖昧だった燃費とエコドライブ効果を 具体的に数値化して広く共有化

SEDACでは様々な角度の条件において、より精確に燃費計測を行うため、2011年11月に茨城・安全運転中央研修所の高速周回路コースにて実施。「①発進加速(グラフ1)」「②停止減速(グラフ2)」「③波状運転(グラフ3)」「④アイドリング」——の4項目で燃費効果を検証した。同実験からエコドライブによる効果が具体的な数値で示され、その有効性と具体的なノウハウが提案された(表)。

最後にSEDACより、今回検証した内容について協力企業でのノウハウ試行を実施し(2012年1月中)、その結果をデータ集計・分析後に公開することを発表した(3月中旬頃を予定)。今後もSEDACは業種を問わず、車両を使う企業や団体の参加を広く募集し、様々な角度での実験や検証を通じて、燃費データやエコドライブノウハウのいっそうの共有化を図る意向だ。

穏やかな発進と早めシフトアップ(グリーンエンジン回転の下限で行う)	○
エンジン(排気)ブレーキの活用	○
高速ギア段の使用とエンジン回転数の抑制	○
適切な速度で効率的な運転	○
波状運転を避け速度変動を抑制する	○
無用なアイドリングを排除	○

表 今回の実験結果から検証されたエコドライブの有効性。
上記のエコドライブにて燃費向上が見られた

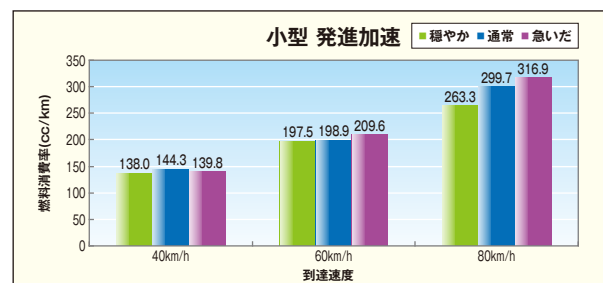


- 1 管理者とドライバーのコミュニケーション
- 2 目標燃費の設定
- 3 エコドライブマニュアルの作成・配布
- 4 燃費への意識づけ
- 5 インセンティブの導入

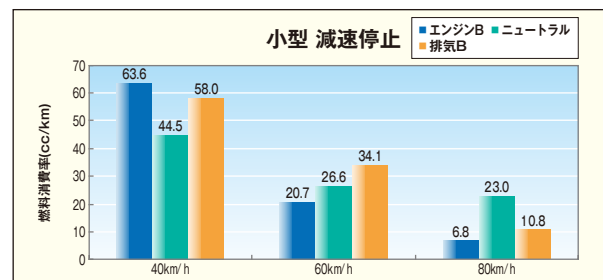
客観的な数値が
取り組みを推進

SEDACでエコドライブのノウハウを実証&共有

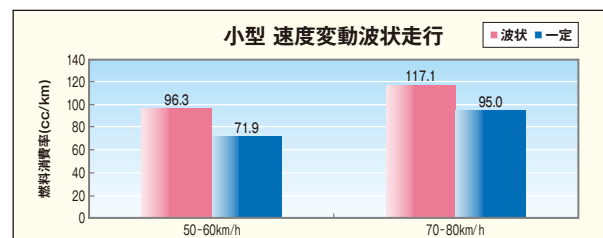
図 各社共通した5つの取り組みを推進したのが「数値化」だった



グラフ1 発進加速。穏やかな発進は燃費が良い



グラフ2 停止減速。早めのアクセルオフでFuel Cutを効かせる



グラフ3 波状運転。波状走行を抑えることで燃料消費量も低下

SEDACに参加していただける企業や団体様を広く募集しております!
ぜひお問い合わせください。TEL 03-5703-7060 (データ・テック内 SEDAC 事務局・太田)

株式会社データ・テック セミナー、イベント紹介

SRを使う、あなたが主人公!

第14回 SRお客様交流会のご案内

日時: 2012年2月16日(木)
場所: 大田区産業プラザPiO
4Fコンベンションホール

恒例の春のお客様交流会を開催します。企業様の導入事例紹介や、異業種間でSR運用や安全、環境などについて語り合う分科会(懇親会もあり!!)まで、充実した内容の交流会です。

株式会社データ・テック

〒144-0052 東京都大田区蒲田4-42-12
TEL.03-5703-7060 FAX.03-5703-7063
http://www.data-tec.co.jp